

「透析患者の爪白癬に対するホスラブコナゾールの安全性と有効性の検討」 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部皮膚科学講座は以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年3月31日～2027年3月31日

〔研究課題〕

透析患者の爪白癬に対するホスラブコナゾールの実臨床における安全性と有効性の検討

〔研究目的〕

透析患者の爪白癬に対しホスラブコナゾールを内服しても安全なのか、更には、透析患者においても有効性が認められるのかを明らかにします。

〔研究意義〕

爪白癬を有する透析患者さんは安全性の懸念から外用剤による治療が中心でしたが、治癒率は極めて低いことがわかっています。ホスラブコナゾールが、透析患者さんにおいても、臨床試験結果と変わらない又は劣らない有効性、安全性が確認できれば、積極的にホスラブコナゾールを治療選択肢として検討することができ、治癒率を上げることができると考えられます。

〔対象・研究方法〕

爪白癬の診断が確定し、2020年1月から2021年10月までホスラブコナゾールを投与された、帝京大学医学部附属病院皮膚科及びふじみ野腎クリニックの透析患者さん及び非透析患者さん計約40名を対象とする予定です。ホスラブコナゾールの効果および副作用の有無に対するデータをカルテから遡って収集します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部皮膚科学講座

責任者：主任教授 多田弥生

研究協力機関

ふじみ野腎クリニック

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報は厳重に管理されます。学会や論文など学外へ情報を発表する際には個人が特定されないように情報の加工を行うため、患者様が特定されることはありません。データの保管は研究終了後、帝京大学臨床研究センターにて10年間とし、その後は破棄を行います。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部皮膚科学講座 主任教授 多田弥生

研究分担者：臨床助手 内田秀昭、准教授 鎌田昌洋、講師 石川武子、講師 田中隆光、

講師 林耕太郎、助手 深谷早希、臨床助手 江川昌太

所属：帝京大学医学部附属病院

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211

(代表) [内線 32610]